ようにどこでもつながるようになって、世の中の人はとりあえずあの会社は何となく信頼感があるとか何となく面白いとか、そんなぼんやりしたイメージで違いを感じとるようになったようです。商品が同じくらいのレベルだったとき、みんな何を基準に選ぶのかというと、人間って「何となく好き」で選ぶんですよ。

市長　なるほど、そうかもしれませんね。

篠原　特に若い人たちはそれが顕著で、どうして選んだのか尋ねると「好きだから」。三太郎シリーズを考えたときは、世の中の全員が何となくauが好きだとどうやったら思ってもらえるかということが大前提として大事だと考えました。そうなると、人柄として「おもかわいい(面白くてかわいい)」存在がいいのではないかと推測したわけです。立食パーティーなどに行くと盛り上がっているところがありますよね。それほど格好いい人がいるわけでもなく頭がいいとか偉い人がいるわけでもなくて、ちょっと面白い人がいるんです。カラオケでも歌はうまくはないんだけれど「おもかわいい」人がいる方が楽しかったりする。auという会社がそう思われるにはどうすればいいのかを考えました。

市長　個人的には、三太郎のＣＭで金太郎を金ちゃん、桃太郎を桃ちゃん、浦島太郎を浦ちゃんと呼んだ時点ですでに面白いと思うんです。あの三太郎シリーズのストーリーは、すでに頭の中の引き出しにいっぱい入っているものを順番に出してくるイメージなんですか。それともアイデアが重なってくるものですか。

篠原　重なっていくイメージですね。最初の構想は、かぐや姫が途中で出てきて桃太郎と結婚すれば面白いかな、そのうち乙姫も出てきて浦島太郎と恋仲になるだろうな、などとざっくりしたものでした。１年間分くらいは何となくこういうストーリーで進んで行くのだろうなというものがありましたが２年目以降はその時々で加えていく感じでした。

市長　こういった面白いお話を伺っていると篠原さんは特別な才能をお持ちだと皆さんから思われそうですが、それに加えてよくお考えになっているのではないかと感じます。やはり考え抜くタイプですか。

篠原　どうしたらアイデアが浮かぶのかということをよく尋ねられるのですが、アイデアは浮かばないんです。アイデアは考えるとか作るとか掘るといったイメージが強くて、そういう意味で本当にしっかり考えます。考えて、考えて、考えて、考えた揚げ句まだあるんじゃないかと探しまくって考えて、考えて。考え抜いた中からどれがいいか一番を選ぶ作業をして、それでもまだ暫定１位なので、また考えて、考えて、考えたものを暫定１位と戦わせると、たまにそれが勝ったりするんです。今までずいぶん考えて生まれたアイデアに勝つアイデアがまだ出たということは、これに勝つアイデアがまだ出るのではないかとさらに考えて、考えて、正直時間いっぱいまで考えて、その時点で自分が正解だと思えるものを提案するという結構泥臭いことをしています。センス良くアイデアが生まれることは本当にありません。

浮かぶというイメージより アイデアは作る掘る考える

市長　極限まで突き詰めておられるわけですね。

篠原　スポーツに近いかもしれません。毎日走り込みを続けると足が速くなるのと一緒で、１週間も休むとアイデアが全然浮かばなくなります。

市長　篠原さんのご活躍に憧れる津高校の後輩や津市の若者も大勢いると思いますが、ひたすら努力し挑戦を続ける姿も別の意味で格好いい。そんな篠原さんを育んだ美杉町川上ですが、当時は小学校がいくつかありましたね。

篠原　７つありました。

市長　川上の小学校時代はどうでしたか。

篠原　複式学級だったのですが、毎日すごく楽しかったですね。授業はもちろん普通にありましたけど、テストなどもあまりなく、圧力があり